

時計音時間

北九州市立霧丘中学校 二年 江田 遥花

あの子が遊んでいる時も
 あなたが眠っている時も
 誰が何をしていても
 私は止まることなく走り続けます
 速度を変えることなく
 一定のリズムを保って
 心地良い音を響かせながら
 永遠に変わらないものが
 ここにあると伝えるように
 ただただ未来まねに向かって走って行きます

自分以外のことも考えながら過すごこしても
 自分のことしか考えずに過すごこしても
 嫌がられるようなことしながら過すごこしても
 感謝されるようなことしながら過すごこしても
 同じ時が流れているのなら
 今しかできないことをしようじゃないか
 いつか今を振り返った時
 ああ良い時間だった 充実していたと
 笑えるように

あなたが遊んでいる時も
 あの子が眠っている時も
 誰が何をしていても
 私は止まることなく走り続けます
 速度を変えることなく
 一定のリズムを保って
 心地良い音を響かせながら
 永遠に変わらないものが
 ここにあると伝えるように
 ただただ未来まねに向かって走って行きます

どこかで一人耳を澄ましてみてください
 いつもは聞こえない
 今だからこそ聞こえる音が
 聞こえてくるはずですよ

最優秀賞 みずかみかずよ賞

時間と私

北九州市立霧丘中学校

三年

岩本

静

めくる
 何度も読んだ本をめくる
 新しく読む本をめくる
 めくる
 何度も使った教科書をめくる
 新しく届いた教科書をめくる
 めくる
 昨日届いた新聞をめくる
 今日届いた新聞をめくる
 めくる
 カレンダーをめくる
 次から次へ 日が過ぎていくことに
 何度も何度もめくり続ける
 昨日のカレンダーをめくることはない
 カレンダーは未来にしか進まない

回る
 オルゴールのネジが回る
 曲が止まったらネジも止まる
 回る
 CDが回る
 音楽を聞き終わったらCDも止まる
 回る
 せんぷうきが回る
 夏が終わったら止まる
 回る
 風車が回る
 風がやんだら止まる
 回る
 時計の針が回る
 何があっても止まらない
 永遠と時間が進む限り回り続ける
 時計も未来にしか進まない

どんなことがあっても
 悲しくても
 楽しくても
 時間は永遠に止まらない
 私の身長も伸びていく
 制限できない時間のように

自由

沖縄県糸満市立三和中学校

二年

平田 ひらた永愛 えな

あの柵をこえて
あの階段をのぼって
あの扉をひらいたら
そこに自由が
広がっているのだろうか。

たぶんちがうのだろう。
たぶんそこに広がっているのは屋上で
わたしは ただ ただ
後悔におそわれるのだろう

この窓をこえて
この囲いにのぼって
この三階からとびおりたら
そこから自由が
はじまるのだろうか。

たぶんちがうのだろう。
たぶんそこからはじまるのは地獄で
わたしは ただただ
見知らぬ人に片づけられるのだろう。

空を飛ぶ鳥になったら私は自由か。
堂々としたライオンになったら私は自由か。
ゆうゆうと泳ぐ魚になったら私は自由か。

自由を求めるわたしは自由か。
自由に見えるあなたは孤独か。

どこに自由が広がっているのだろう。
どこから自由がはじまるのだろう。
どこから孤独ははじまって、
どこから孤独が広がるのだろう。

もう一度、問う。
わたしは自由か。

桜

北九州市立霧丘中学校 三年 石原いしはら 優ゆう

春の訪れ

山が桜色に染まり始める

桜が咲くとみんな見上げたくなる

桜が咲くとみんな近くに集まりたくなる

そしてみんな笑顔になる

でも今は

それが叶わない

桜がこんなに遠いものになるなんて

あたりまえのことがあたりまえでなくなる

なんて

去年の今頃は どうしてだろう

別れや出会い、悲しみや喜び

様々な感情を抱きながら、前へ前へと進んでいた

何も疑いもせずに

春の終わり

山から桜色がどんどん消えてゆく

誰にも見られないまま、美しく舞い散っていたのだろうか

花びらはきつと地面で茶色に変わっている

だろう

まるで今の私のようにだと寂しくなる

一人で過ごす日々

窓を開けてみる

風が髪を乱す

「桜なら来年もまた咲くよ」

そう言われた気がした

桜は散ってしまうけど、すぐに緑色の新芽が出て次に花咲く

準備をし始める

みんなが見向きもしなくなっても

暑くても寒くても

花咲く日を目指して

静かにそこに立ち続ける

私も右往左往するのはやめよう

時には苦しくなる時も

逃げたくなる時もあるだろう

でもそんな時はまた窓を開けて桜を思う

私はここにいて

自分の信じる道を一步一步歩いていけばいい

航海

北九州市立霧丘中学校 三年

中田

愛梨

すべては変わり続ける
すべてはいつか終わる
すべては不完全である

始まりがあれば終わりがあ
その時期は誰にも分らない

だが その時期を変化させることはできる
どんな方向にも

変えるべき方向は分かっている

地球という大きな船がどこに辿り着くのか
進路を決めるのは

私たちの行動である

今とどれだけ向き合えるか

その人数が 道を切り開く鍵となる

想像力の扉を開けることができたとき
船には何人乗っているだろう

明日の保証がない航海

今 私たちは生きている

すべては永久不変でないように
この状況にも終わりが来る

航海で得た教訓を

後世に伝え 残すことは

未来への財産になるはずだ